



傾城阿波の鳴門

—人間国宝・吉田和生が描き出す母子の情愛—
けいせいあわのなると

順礼歌の段
じゅんれいうたのだん

文
SDGs
楽

文楽ってサステナビリティ？
江戸時代から続く文楽のSDGsとは？
若手技芸員が解説！

知って楽しい、
知的文楽探検セミナー
文楽に遊ぶ
PART 27



人形浄瑠璃文楽座人形遣い
吉田和生(人間国宝)

2023 **12/22** (金)
14時開演(13時30分開場)
西宮市プレラホール

阪急西宮北口駅から南へすぐプレラにしのみや5階

全席指定

一般 2,500円

アミティ友の会/学割 2,000円

当日各 500円増 (各消費税込)

※前売り完売の場合、当日券は販売しません。

| 販売時期 |

アミティ友の会先行販売▶窓口 10月20日(金) 10時～

一般販売▶窓口・イープラス 10月27日(金) 10時～

※未就学児の入場はご遠慮ください。

※学割は中学校・高等学校・高等専門学校、大学、短大、専門学校に通う学生が対象です。

※アミティ友の会・学割のチケットをお求めの際は購入時に窓口にて証明書(会員証、学生証等)をご提示ください。

| チケット取扱所 |

西宮市民会館(9:00～17:00 火曜休館)/0798-33-3111

プレラホール(9:00～20:00 火曜休館)/0798-64-9485

イープラス/<https://eplus.jp/>(一般のみ)ご購入はこちらから▶



写真=浅野敦

主催・問合せ:(公財)西宮市文化振興財団 TEL:0798-33-3146(平日9:00～17:30) 企画制作:(一財)日本伝統芸術文化財団 協力:関西舞台(株)

助成:文化庁文化芸術振興費補助金統括団体による文化芸術需要回復・地域活性化事業(アートキャラバン2)|独立行政法人日本芸術文化振興会

「公文協アートキャラバン事業 劇場へ行こう3」参加事業

〈プログラム〉

第1部 Part I「文楽のSDGs！」

持続可能な未来の文楽を担う技芸員による「三業」解説

太夫 竹本碩太夫
三味線 野澤 錦吾
人形 吉田 和馬

Part II「国立文楽劇場初春文楽公演」あらすじとみどころ

解説 吉田 和生 (人間国宝)

聞き手 橋高 邦子

〈出演者〉

太夫

三味線



竹本碩太夫



野澤 錦吾

人形遣い



吉田 和生
(人間国宝)
(女房お弓)



吉田 玉路



吉田 和馬
(順礼おつる)



吉田 簀之



吉田 玉延



吉田 和登

第2部 『傾城阿波の鳴門』 順礼歌の段

「文楽」と西宮

世界に通じる伝統芸能「文楽」と西宮は、深い縁(えにし)があります。西宮神社境内にある百太夫社は、人形操りの神社として百太夫神をお祀りしています。その昔、西宮の傀儡(くぐつ)師は「えびすかき」と称し、えびす様をかたどった人形を操り、全国を廻って神社の神札を配ってそのご神徳を広めました。江戸時代にはじめて三味線、浄瑠璃と一緒に人形を操ったのも西宮の人であるといわれています。

淡路島出身の植村文楽軒が大坂(現国立文楽劇場近く)に人形浄瑠璃の小屋を建て、時を経て「文楽座」と称するようになります。

太夫・三味線・人形遣いを包括した文楽座は、歴史と伝統を受け継ぎ、芸術的に洗練された形式を持ち備えて世界に通じる伝統芸能へと発展しました。

2006年にはユネスコ世界無形遺産に指定され、日本の三大伝統芸能のひとつとして世界中の人々から愛好されています。



〈解説とあらすじ〉

けいせいあわのなると

『傾城阿波の鳴門』 順礼歌の段 (近松半二 他 合作)

全段は、阿波徳島の藩主玉木家のお家騒動の話で、忠義の家老桜井主繕が悪人小野田郡兵衛に主家の重宝国次の名刀を盗まれますが、藩臣十郎兵衛とその妻お弓及び藤屋伊佐衛門らによって悪人から再び名刀を取り返し、主家が再び安泰になるという物語です。

十郎兵衛が借金の工面に出た後、お弓一人のところへ飛脚が手紙を届けます。読むと「すでに追手が迫っている」との仲間からの手紙。国を出てから幾年も名刀を取り戻す為、人の家、蔵まで押し入り探し続けているのも、みな主家への忠義の為。ところがその目的を果たす前に捕らわれては今までの苦心も水の泡に。盗人の汚名ばかりを残すこととなります。

上演する場面は、届けられた手紙を読んだお弓が「神仏助け給え」と手を合わせているところへ、可愛い順礼の詠歌が聞こえてくることから始まります。

あまりに幼い少女なので身の上話を聞いてみると、なんとこの子こそ国許に残してきたわが娘お鶴。預けておいた祖父母が亡くなり、両親の行方を尋ね歩く順礼の旅に出ているとのこと。お弓は、我が子愛しさ、可愛さにその場で母と名乗って抱きしめたい思いに駆られるが、今は共に暮らすことができない境遇。名乗らない方が我が子の為と思ひ直し、何かといたわりの言葉をかけ、心を鬼にして別れる。しかし、子を思う母の心は耐えきれず、娘の後を追うお弓であった。

『ととさまの名は十郎兵衛、かかさまの名はお弓と申します・・・』の台詞は、あまりにも有名です。

参考：国立文楽劇場文楽公演冊子

人間の魂がのりうつったかのような人形…
感情豊かに語る浄瑠璃…
心の底にしみわたる太榊の響き…
西宮は文楽の源流『くぐつ師』発祥の地。
世界に知られる伝統芸能『文楽』の世界へ
さあ、こいつしよに！

